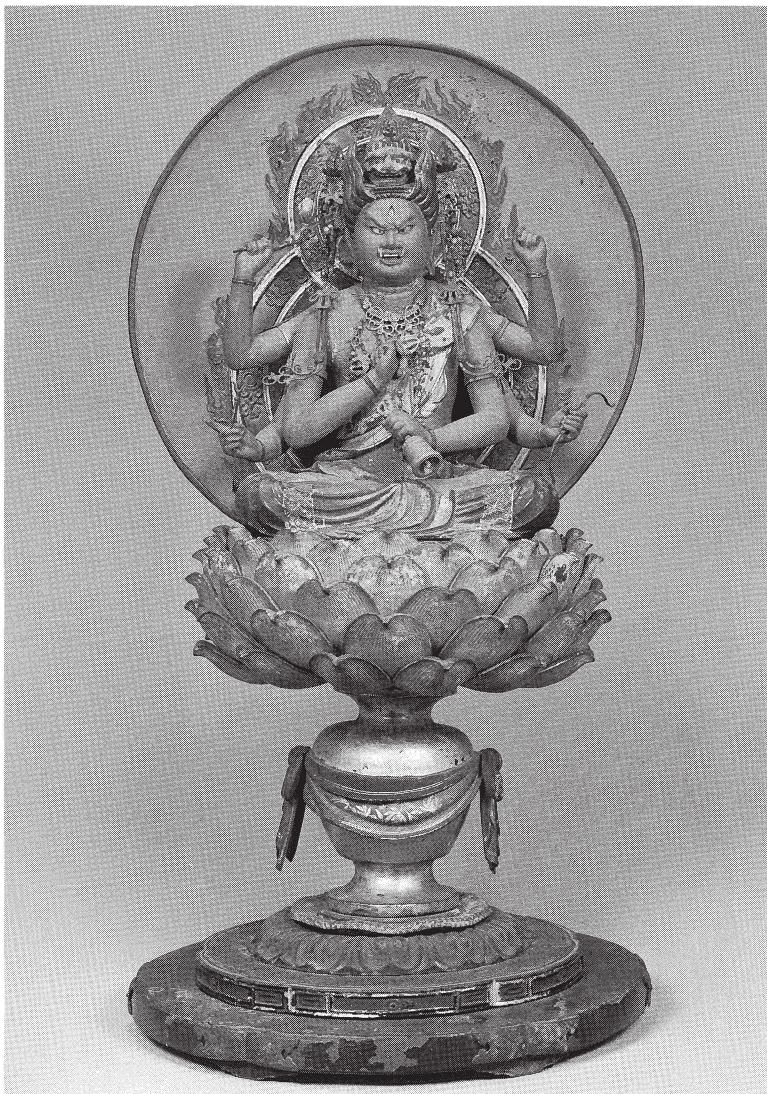


第18号

奈良 国立博物館 だより

平成8年 7・8・9月



〔写真説明〕

◎木造愛染明王坐像
(当館)

重要文化財 像高26.2cm
鎌倉時代 建長8年(1256)

愛染明王は、激しい愛欲をそのまま煩惱浄化の力に変えるほどで全身が赤く、3つの目と6本の手をもち、怒りの表情で、頭には獅子の冠をのせている。この像は、体内に納められていた経巻や台座の銘文から、寂澄が願主となり、仏師快成が東大寺大仏殿の古材を用いて制作したことがわかる。

親と子のギャラリー

「ぶつぞう入門」

●小・中学生もわかる仏像のいろいろ
後援:奈良県教育委員会

8月2日(金)~8月25日(日) 本館

特集展示

「仏具にみる透彫」

8月2日(金)~8月25日(日) 本館

平常展

「仏教美術の名品」

7月2日(火)~7月28日(日) 本館
8月2日(金)~8月25日(日) 本館

月曜日休館

午前9時~午後4時30分(入館は4時まで)
ただし金曜日は午後8時まで開館(入館は7時30分まで)

親と子のギャラリー
「ぶつぞう入門」
●小・中学生もわかる仏像のいろいろ

8月2日(金)～8月25日(日) 本館展示室 1・2・9～13室

仏像には、いろいろな種類があります。種類によって名前も形もちがいます。たとえばシャカ(釈迦)とカンノン(觀音)は、別の種類のホトケ(仏)で、形もちがうので、すぐ見分けることができます。シャカはパンチパーマのような頭をしていますが、カンノンは髪の毛をきれいにたばねて冠(カンムリ)をかぶっていますので、間違えることはありません。博物館にはたくさんのおなじみの仏像があります。やさしい顔の仏像や、とてもこわい顔の仏像もあります。カンノンには頭が11個のものや、1000本の手をもつものなどいろいろあります。6個の頭と6本の手足をもつミヨウオウ(明王)は、死神にも打ち勝つ強い力をもったホトケです。ライオンにのったモンジュ(文殊)は、最高の頭脳をもったホトケですから、受験の時に助けてくれるはずです。博物館でいろいろな仏像を見て、仏像博士になりませんか。仏像のことがだれにでも簡単にわかるやさしい入門教室を夏休みに開きますので、仏像のことをもっと学習してみてください。レントゲン写真で仏像のおなかの中のぞいてみましょう。仏像のおなかには、どんな宝物がかくされているでしょうか。きっとおもしろい発見に出会えます。

特集展示「仏具にみる透彫」^{すかし ぼり} 8月2日(金)～8月25日(日) 本館展示室 3室

透彫は金属板、木板、牛皮などをくりぬいて図案を表す技法をいい、光や香りが透過する効果を生むため、燈籠や香炉に用いられたほか、舍利容器などで内部をかいだ見せることにも使われています。また、透彫は作品に軽快さを与えるとともに図柄をきわだたせる効果があるため、仏像の光背や華鬘、幡、天蓋、華籠などの仏具にもしばしば用いられました。特に平安後期から鎌倉時代にかけては透彫が質量ともに多彩を極めた時代で、堂内莊嚴具をことごとく透彫で表した中尊寺金色堂や、高度な金工技法を駆使した西大寺の金銅透彫舍利容器など、透彫の名品が生み出されています。本展は平安後期から鎌倉時代を中心に、透彫が施された仏教工芸の粹を展示する試みです。

平常展「仏教美術の名品」

7月2日(火)～7月28日(日) 8月2日(金)～8月25日(日) 本館

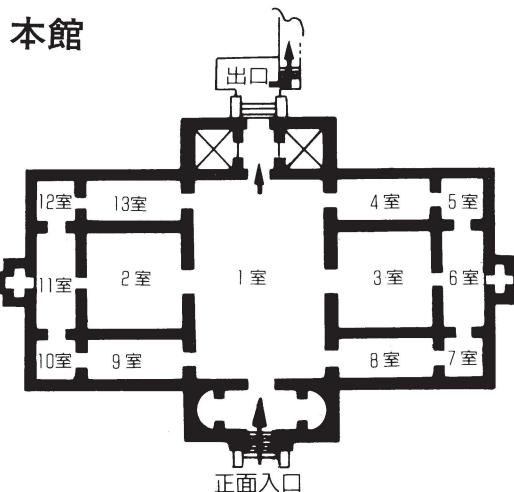
当館では、わが国の仏教美術に関する多くの文化財を収蔵・保管しています。平常展ではそうした館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を集めて、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門に分けて展示しています。



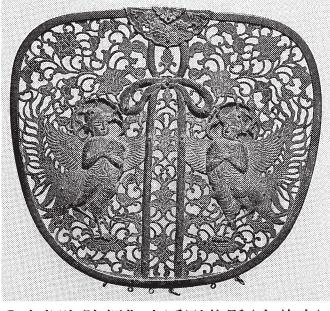
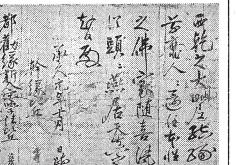
木造弥勒菩薩立像（林小路町）



●金銅透彫舍利容器（西大寺）



主な展示品

本館						
七 月	彫 刻	工 芸	考 古	絵 画	書 跡	
	 <p>◎木造釈迦如来坐像(東大寺)</p>	<p>[1室] ◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造觀音菩薩立像(法起寺)、◎銅造觀音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◎木造菩薩立像(金龍寺)、◎銅板法華説相図(長谷寺)、◎木造勢至菩薩立像(法隆寺)、◎乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像(興福寺)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)、◎木造薬師如來坐像(元興寺)、◎木造十一面觀音立像(當館)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造薬師如來坐像(當館)、◎木造十二神将立像(東大寺)、◎銅造藏王權現立像(當館)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎銅造阿彌陀如來立像(善光寺)</p> <p>[2室] ◎木造如意輪觀音坐像(當館)、◎木造阿彌陀如來坐像(當麻寺)、◎木造金剛力士立像(財賀寺)、◎木造阿彌陀如來坐像(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造日羅立像(橘寺)</p> <p>[3室] ◎銅造・誕生釈迦仏立像・灌仏盤(東大寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造愛染明王坐像(當館)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、◎木造釈迦如來坐像(東大寺)〈写真〉、木造四天王立像(靈山寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、◎木造千手觀音立像(妙法院)</p>	<p>[9室] ◎金銅迦陵頻伽文透彫華蓋(中尊寺)、◎金銅宝相華文透彫花籠(神照寺)、◎紙胎彩繪蓮華文花籠(萬德寺)、◎蓮唐草模繪經箱(當館)、◎金銅唐草文透彫經筒(萬德寺)、◎銅三具足(聖衆來迎寺)、金銅柄香炉(高山寺)、◎金銅密教法具(巖島神社)、金銅一面器(西大寺)</p> <p>[10室] ◎金銅宝相華文線刻如意(當館)、金銅錫杖頭(當館)、金銅錫杖頭(當館)、◎銅梵鐘(當館)</p> <p>[11室] 百万塔及び陀羅尼(當館)、銅錢弘倣八万四千塔(當館)、銅寶筐印塔(當館)、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎黒漆舍利厨子(般若寺)、黒漆四方殿舍利厨子(能満院)</p>	<p>[11室] ◎金峯山經塚出土鍍銀經箱(金峯神社)、銅經筒〈平治元年銘〉、瑠璃鈕銅宝幢形經筒、和歌山・粉河經塚遺物、◎石製弥勒如來坐像、◎伝福岡県出土銅經筒・滑石外筒、◎伝福岡県出土經塚遺物(以上當館)</p> <p>[12室] ◎線刻藏王權現鏡像(金峯山寺)、伝和歌山・白浜經塚出土品(當館)</p> <p>[13室] ◎佐井寺僧道葉墓誌及骨壺、◎山代忌寸真作及妻墓誌、行基舍利瓶断片、◎出雲荻原古墓出土品(以上當館)、◎青磁鉢附瓦製鉢(正暦寺)</p>	<p>[4室] 紹本著色両界曼荼羅、◎紹本著色一字金輪曼荼羅、◎紹本著色大仏頂曼荼羅、◎紹本著色釈迦三尊像、◎紹本著色千手觀音像、◎紹本著色如意輪觀音像、◎紹本著色五大尊像、◎紹本著色不動明王八大童子像(以上當館)、紹本著色二河白道図(薬師寺)、◎紹本著色文殊菩薩像(當館)</p> <p>[6室] 紹本著色法華經曼荼羅(當館)、◎紹本著色聖德太子及び天台高僧像(一乘寺)、◎紹本著色当麻曼陀羅(當館)</p>	<p>[8室] ◎感夢記(園城寺)、◎七大寺日記(當館)、淨藏法師伝(當館)、神護寺交衆任日次第(當館)、華手經卷第十二(五月一日經)、◎増一阿含經卷第五十(善光朱印經)、◎光明最勝王經(百濟虫願經)、◎西大寺・瑜伽師地論卷第八十九(舍人國足願經)、◎紺紙金銀交書大般涅槃經(中尊寺經)、金剛峯寺、紺紙金字大智度論(神護寺經)、◎紺紙金字法華經(興聖寺)</p>
7月29日(月)～8月1日(木) 展示替えのため休館いたします。						
八 月	<p>親と子のギャラリー「ぶつぞう入門」8月2日(金)～25日(日)</p> <p>[正面入口] 仏像からみなさんへ「わたしのなまえは？」</p> <p>[9室] 仏(ホトケ)の種類は4つ</p> <p>◎薬師如來坐像(木造 当館)〈写真〉、弥勒菩薩立像(木造 奈良・林小路町)、◎不動明王坐像(木造 京都・正寿院)、◎誕生釈迦仏像(銅造 愛知・正眼寺)、◎誕生釈迦像(銅造 奈良・悟真寺)、◎誕生釈迦像(銅造 奈良・東大寺)、釈迦如來坐像(銅造 滋賀・園城寺)、釈迦如來坐像(木造 当館)、薬師如來坐像(模造 当館)、◎薬師如來坐像(銅造 奈良・般若寺)、◎薬師如來坐像(銅造 当館)、阿彌陀三尊像(木造 京都・峰定寺)、大日如來坐像(木造 奈良・元興寺町)</p> <p>[10室] 「わたしのなまえは？」の答え</p> <p>[11室] 菩薩(ボサツ)の世界</p> <p>◎弥勒菩薩像(銅造 奈良・神野寺)、◎弥勒菩薩像(銅造 奈良・東大寺)、◎弥勒如來像(木造 奈良・東大寺)、◎觀音菩薩立像(銅造 奈良・法隆寺)、◎觀音菩薩立像(銅造 法隆寺)、◎觀音菩薩立像(銅造 大阪・金剛寺)、◎觀音菩薩立像(銅造 奈良・法隆寺)</p> <p>[2室] 姿を変化させる觀音(カンノン)</p> <p>◎千手觀音立像(木造 京都・妙法院)、◎千手觀音立像(木造 滋賀・園城寺)、◎如意輪觀音像(木造 当館)、◎十一面觀音像(木造 奈良・勝林寺)、◎十一面觀音像(木造 当館)、◎十一面觀音像(木造 京都・海住山寺)、◎獅子像(木造 当館)、◎地藏菩薩立像(木造 奈良・東大寺)、◎地藏菩薩立像(木造 奈良・春覚寺)、◎地藏菩薩立像(木造 滋賀・長命寺)、◎虛空藏菩薩像(木造 奈良・北僧坊)</p> <p>[11室] 強い力をもつ明王(ミョウオウ)</p> <p>五大明王像(木造 当館)、◎不動明王像(木造 滋賀・園城寺)、不動明王立像(木造 奈良・天ヶ瀬院)、◎愛染明王坐像(木造 当館)、◎馬頭明王像(木造 京都・淨瑠璃寺)</p> <p>[12室] 最強の明王・大元帥(ダイゲンスイ)</p> <p>[13室] 守護神となったホトケ・天(テン)</p> <p>四天王像(木造 奈良・靈山寺)、十二神将像(木造 当館)、◎十二神將像(木造 奈良・興福寺)、◎金剛力士像(木造 愛知・財賀寺)、◎金剛力士像(乾漆 当館)、大黒天像(木造 当館)、◎吉祥天像(木造 奈良・興福寺)、◎閻魔王像(木造 奈良・金剛山寺)</p> <p>[1室] 仏像のおなかから出た宝物</p> <p>◎大黒天像と納入品(奈良・西大寺)、十一面觀音像と納入品(當館)、如意輪觀音像と納入品(當館)、◎釈迦如來像納入品(京都・峰定寺)、◎釈迦如來像納入品(奈良・西大寺)、◎愛染明王像納入品(奈良・西大寺)、◎文殊菩薩像納入品(奈良・西大寺)、◎興正菩薩像納入品(奈良・西大寺)、菩薩立像と千手觀音像(當館)</p> <p>仏像のおなかの中を見る</p> <p>阿彌陀如來坐像(木造 当館)と像内写真、役行者像(木造)の像内展示</p> <p>木で仏像をつくる方法</p> <p>一木造・寄木造・割矧・玉眼についての模型展示</p>	<p>特集展示 「仏具にみる透彫」 8月2日(金)～25日(日)</p> <p>[3室] 光背(當館)、◎牛皮華蓋(呂号)(當館)、◎牛皮華蓋(知号)(當館)、◎金銅迦陵頻伽文透彫華蓋(中尊寺)〈写真〉、◎金銅幡頭(中尊寺)、◎金銅尾長鳥文透彫華蓋(細見美術財団)、金銅尾長鳥華蓋(當館)、牛皮彩色華蓋(峯定寺)、牛皮華蓋(當館)、金銅種子華蓋(當館)、◎金銅透彫華蓋(神照寺)、菊牡丹文彩色華蓋(當館)、◎金銅透彫經筒(萬德寺)、◎金銅宝相華文透彫華蓋(神照寺)、◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎釣燈籠(當館)</p>	<p>[3室] 東大寺金堂鎮壇具(東大寺)〈写真〉、元興寺五重塔鎮壇具(當館)、靈安寺塔跡鎮壇具(當館)</p> <p>[4室] 紹本著色当麻曼陀羅(西教寺)、紹本著色九品來迎図(滝上寺)、紺絹金銀泥絵両界曼荼羅(西大寺)、紹本著色一字金輪曼荼羅(南法華寺)</p> <p>[6室] 紙本著色地獄草紙(當館)〈写真〉、紹本著色六道絵(聖衆來迎寺)、紺紙本著色辟邪絵(當館)</p>	<p></p> <p>●東大寺金銅鎮壇具のうち銀壺(東大寺)</p> <p></p> <p>●金銅迦陵頻伽文透彫華蓋(中尊寺)</p> <p></p> <p>●紙本著色地獄草紙(當館)</p>	<p></p> <p>●泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)</p>	<p>[8室] 大悲経(五月一日経)、正暦寺、大般若経(魚養経)、法華経序品(竹生島経)、宝嚴寺、大般若経卷第四百二(源豪一筆経)、阿彌陀悔過料資財帳(東大寺)、西大寺三宝料田畠目録(西大寺)、六祖惠能伝(延暦寺)、上宮聖徳法王帝説(知恩院)、泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)〈写真〉、大福田寺勸進状(大福田寺)</p>
九 月	8月26日(月)～ 工事のためしばらくのあいだ休館いたします。					

第二新館(仮称)と地下連絡通路の建設について

現在、奈良国立博物館は大規模な工事の真っ最中です。大きなフェンスに囲まれているので、外からは工事の進み具合がよくわかりません。今、どんな工事がどこまで進んでいるのか、簡単にご紹介しましょう。

今おこなっている工事は、第二新館の新設、新館の改修、地下連絡通路の新設です。

第二新館が新設され、新館が改修されると、展示面積が従来の約1.7倍になり、今まで以上に充実した企画展示をおこなうことができるようになります。「正倉院展」の混雑もかなり緩和されると思います。また、収蔵庫のスペースも約1.4倍に広がり、文化財の保存管理をさらに徹底させることができます。そして講堂などの学習施設も格段に充実したものになるので、多くの方々に各種の講座を楽しんでいただくことができます。このように、第二新館の新設と新館の改修によって、博物館の施設・設備は著しく拡充されることになります。

その第二新館は、すでに駆体部の工事が完了しました。外壁にはライムストーンという大理石の一種を用いており、屋根はすべてチタン製です。現在は内装を仕上げているところです。

新館の改修の内容は、従来の収蔵庫と写場を展示室および通路に造り替え、第二新館と連結させる（連結部分が正面玄関になる）ことですが、前者の工事は今年の8月末には完成します。

後者は植栽などの周辺整備も含め、平成10年（1998）3月に完成する予定です。

もうひとつの工事は、地下連絡通路の新設です。

この地下連絡通路は、本館と新館・第二新館を総合的に連絡する通路で、延床面積が2,152m²、全長は約200mという大きな地下施設です。本館と新館をつなぐ地下通路は、昭和56年（1981）につくられたものがありましたが、幅が狭い上に、高齢者や身障者の方々のための施設がなく、地震対策などの防災面でも必ずしも十分とはいえませんでした。今回、第二新館の新設を機に建設の予算が計上され、念願の計画が実現することになりました。

この地下連絡通路の工事は、まだ基礎工事が終わった段階ですが、第二新館より1年早く、平成9年（1997）2月には完成する予定です。この建設にあたっては、高齢者や身障者の方々のためにエレベーターを設置し、防災対策にも十分に配慮しています。また内部空間には、仏教美術の理解を助けるための模型などの展示コーナーや、喫茶ラウンジ、ミュージアム・ショップがあり、観覧者の方々に学びと憩いの場を提供できるように工夫されています。広い空間のピロティからは外の景色が眺められるので、奈良の美しい四季の変化を感じていただけることでしょう。

平成10年（1998）の春には、すべての施設が完成します。それに合わせて周辺の庭園も整備されます。開館103年目に新しく生まれ変わる奈良国立博物館にご期待下さい。



(完成予想図)
入口広場からの外観

親と子のギャラリー 「ぶつぞう入門」入門教室

8月2日(金)・6日(火)～9日(金)・13日(火)～16日(金)には、午前11時と午後2時から30分ずつ、陳列室にて説明をします。入館者の聴講は自由です。

ギャラリートーク

7月10日(水)「仏教工芸の美」

主任研究官 内藤 榮

午後2時より、本館陳列室にて。入館者聴講自由。

親と子の文化財教室

平成8年度〈鎌倉時代の歴史と美術〉 主催：当館 後援：奈良県教育委員会

平安時代のおわりに武士が登場すると、それまで政治や文化に大きな影響を与えてきた貴族はしだいに力を弱め、かわって武士が勢力をもつようになりました。そして貴族を中心とした華やかな平安時代の文化は、力づよい武士の文化へとかわっていきます。そのころ奈良では、戦乱によって焼失した東大寺や興福寺のお堂や仏像の復興に多くの人々がかかわり、新しい建築や美術が生み出されました。

この教室は、鎌倉時代の歴史や美術について親子で学び、実際に作品を見たり、遺跡やお寺を見学しながら、大切に守られてきた鎌倉時代の文化財について考えてみようというものです。

〈年間予定〉

- 7月13日(土) 鎌倉時代の建築（現地見学を含む）
- 8月10日(土) 鎌倉時代の仏師—運慶と快慶—
- 9月14日(土) 東大寺と興福寺の仏像（現地見学を含む）
- 10月12日(土) さまざまな塔のかたち
- 11月9日(土) 鎌倉時代の工芸品
- 12月14日(土) 鎌倉時代の絵画

〈会場〉国際奈良学セミナーhaus・当館展示室ほか

〈時間〉午前10時～正午

〈対象〉小学校5・6年及び中学生とその保護者等

〈定員〉50名（保護者を含む）

〈参加費〉無料（ただし、見送料金等が必要な場合があります）

〈講師〉奈良国立博物館 研究員

〈申し込み方法〉往復はがき（または電話）で、希望日・住所・氏名・学校学年・電話番号、いっしょに参加する保護者等の氏名を記入の上、奈良国立博物館「親と子の文化財教室」係

〒630 奈良市登大路町50 ☎0742(22)7771までお申し込みください。



開館時間 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

毎金曜日は午後8時まで（入館は7時30分まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金 毎月第二・四土曜日は、小・中学生無料

平	大 人	高・大生	小・中生
常	400	130	70
展	200	70	40

（団体は責任者が引率する20名様以上。）

親と子のギャラリーおよび特集展示は上記料金で観覧できます。

無料観覧日 8月15日(木)

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**